

お知らせ

<同時資料提供先>



合同庁舎記者クラブ・鳥取県政記者会・島根県政記者会・岡山県政記者クラブ・広島県政記者クラブ・山口県政記者クラブ・山口県政記者会・山口県政滝町記者クラブ・中国地方建設記者クラブ

地方自治体が抱える施設管理の課題に対し、民間企業等が保有するシーズ技術を募集します（令和6年度ニーズ）

～ インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」 シーズ技術の募集 ～

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」では、地方自治体が抱える施設管理の課題（ニーズ）を解決するため、民間企業等が保有する技術を募集します。

■応募資格

施設管理者のニーズ※1 に適応するシーズ技術を保有する民間企業等※2

※1 施設管理者のニーズ：別添「シーズ技術の募集 別紙ー1」をご参照ください。

※2 民間企業等：民間企業、協会、法人、大学・高等専門学校等の単体又は共同体が対象です。

■募集期間

令和6年9月18日（水）～令和6年10月11日（金）

■申込要領

別添「シーズ技術の募集」による

➤本シーズ技術の募集は、インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」のホームページにも掲載されています。申込書のオリジナルデータはこちらからダウンロードできます。

「ちゅうごく」ホームページ URL：<https://www.cgr.mlit.go.jp/kikaku/im/index.html>

➤中国地方整備局は、産学官民の技術や知恵を総動員するプラットフォームとなるインフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の取り組みを支援しています。

問い合わせ先

【シーズ技術の募集に関すること】

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員会（事務局）

（復建調査設計株式会社 保全構造部内）TEL：050-9002-1744

藤井 友行（E-mail：icim-chugoku@fukken.co.jp）

「ちゅうごく」ホームページ URL：<https://www.cgr.mlit.go.jp/kikaku/im/index.html>

【インフラメンテナンス国民会議に関すること】

国土交通省中国地方整備局 企画部 TEL：082-221-9231

広域計画課 課長 佐々田 敬久（内線3211）

広域計画課 課長補佐 石田 高嗣（内線3212）

令和6年9月18日

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」

シーズ技術の募集

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」では、地方自治体が抱える施設管理の課題（ニーズ）に対し、民間企業等が保有する技術やノウハウを持ち寄り、シーズ技術を広く共有し、技術の発掘と社会実装、連携の促進を図るピッチイベントを開催しています。

つきましては、下記のとおり別紙－1に示す「令和6年度施設管理者ニーズ」に対し、民間企業等が保有するシーズ技術を募集します。

シーズ技術をご応募される民間企業等は、別紙－2の「シーズ技術申込書」に必要事項をご記入いただき、申込要領に示す提出資料②、③とともに電子メールにてご応募ください。

ご応募いただいたシーズ技術は、施設管理者のニーズに適応する可能性が高いと認められたものについて、今後開催するピッチイベントでご紹介いただくことを予定しています。また、ピッチイベント後には、実用化の可能性を検証するフィールド実証試験の実施を想定しています。

記

- 応募資格 : 施設管理者ニーズに適応するシーズ技術を保有する民間企業等
- 募集期間 : 令和6年9月18日(水) ~ 10月11日(金)

お問い合わせ先

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」 企画委員会

藤井友行、天満真士（復建調査設計株式会社）

E-mail : jcim-chugoku@fukken.co.jp

TEL : 050-9002-1744

申込要領

1. 応募資格

シーズ技術を保有する民間企業等

2. 応募手続き

申込み方法 : 提出資料を電子メールにて申込み先に送付

提出資料 : ① シーズ技術申込書(別紙-2)
② 情報提供を予定しているシーズ技術の概要、コスト、適用条件、
アピールポイント、開発状況、その他参考内容
(任意様式A4×1枚程度)
③ 実施事例がある場合は状況写真等(任意様式A4×1~2枚程度)

申込み先 : インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員会
藤井友行、天満真士(復建調査設計株式会社)
メールアドレス: jcim-chugoku@fukken.co.jp

3. 募集期間

令和6年9月18日(水) ~ 10月11日(金)

4. ピッチイベントへの参加者の決定

企画委員会において応募者の中から書類選考により決定します。

5. 選考結果の通知

令和6年10月18日(金)までに応募者の連絡先に通知します。

6. 留意事項

応募に際しては、次の留意事項をご確認下さい。

留 意 事 項

【知的財産権に関する主な留意事項】

- ピッチイベントは、オープンな場として運営することを基本とし、自らの技術を紹介する場合には、自らの責任においてこれを行うことが求められており、秘匿すべき情報はその場に持ち込まないことを前提とします。
- 一方、議論する中で様々なアイデアが出されることが想定され、これを基に、ある参加者が発明を創出し、特許出願などにより知的財産権が成立する可能性も否定できません。
- アイデアを得て参加者が技術開発を行い、発明に至った場合や申請を行った場合には、技術開発を行った者に知的財産権が認められるものと考えられます。
- また、議論を通じ、技術開発の共同グループが形成される場合には、知的財産の取扱いについて、あらかじめ当事者間で取決めておくことが望ましいです。
- 参加者は、この基本的な考え方に同意して出席する必要があります。

【著作権に関する主な留意事項】



- 参加者は、提出した資料等に係る著作権に関し、企画委員会等が当該資料を利用（複製や公衆通信などを含みます）することを許可することとし、また著作者人格権を行使しないことに同意することとします。
- また、参加者は、提出資料に記載された文書、図表、写真、イラストなどの著作権等に留意し、使用許可が必要な場合は、参加者の責任において必ず許可を得ておくこととします。

※参加者には、「インフラメンテナンス国民会議運営上の知的財産の取扱いに関する事前の取決めとなるガイドライン」を通知いたします。

令和6年度 施設管理者ニーズ一覧表

工種	分野	細分	No.	ニーズ分類	対象とするニーズ	特に必要とする条件	条件等
調査・点検	道路	橋梁(全般)	1	新技術等の導入	■小規模橋梁の効率的な点検 ・新技術による点検の採用を検討しても、橋梁毎の施工量が少なく(橋長20m以下の橋梁多数)かつ橋梁が散在しているため、コスト削減効果を見込むことが困難である。	コスト削減	・小規模橋梁の点検に効率的、経済的な新技術であること
		橋梁(全般)	2	新技術等の導入	■ドローンを活用した新技術 ・ドローンでの調査は高価であり打音調査程の精度はないとのことをコンサルタントから聞いている。	精度	・ドローン調査の中でも安価で精度の高い新技術等
		橋梁(全般)	3	新技術等の導入	■写真撮影による劣化診断 ・橋長の短い橋(5m以下)については直営点検を行っているが、現地調査から調査作成まで負担が大きいため業務の効率化を図りたい。	労力・人員削減	・極力費用が安価な技術 ・写真より劣化状況を判断し調査に反映させる技術
		橋梁(全般)	4	その他	■高度な点検技術によるデータの軽量化 ・新技術によるデータが非常に大きいため、提出様式への変換に多大な労力を要したり、通常のパソコンでは扱うことができない場合がある。	事務手続き等の簡素化	(特になし)
		道路付属物	5	新技術等の導入	■街路樹の成長による道路建築限界への侵入枝の早期発見 ・樹木は毎春の枝成長による徒長が大きくなり大型車との衝突が発生している。 ・街路樹の大型化や高齢化が進み幹の空洞化が散見され倒木リスクが高い。 ・恒常的な職員不足で全ての街路樹を人が計測することは不可能である。	労力・人員削減	・公用車(路線バス、農芥車、消防車も含む)にカメラを搭載し、画像計測による限界範囲への侵入が判定できるとともに、斜傾の進行や発生も検知し倒木のリスク診断ができる安価なシステム
		のり面(吹付・法枠)	6	新技術等の導入	■道路法面の崩落予測 ・全ての道路法面に対してハード対策を実施することは財政的、時間的に困難なため、デジタル技術等の活用により崩落予測を確立することで事前に交通規制するなどハードとソフトが一体となった効率的、効果的な法面対策を実現したい。	精度	(特になし)
		その他	7	新技術等の導入	■道路路肩の除草、道路の建築限界確保の必要箇所を迅速に認識・把握する技術 ・道路パトロール時の省力化を図りたい。	労力・人員削減	・車載カメラ等で位置情報と現地状況が容易に把握できること
	河川	河道	8	新技術等の導入	■河道、護岸の変状等の効率的な現状把握 ・現地確認でしか現状把握ができないため、大規模出水後の緊急を要する場面や通常点検時に時間を要している。	労力・人員削減	・極力費用が安価な技術
	砂防	のり面(吹付・法枠)	9	新技術等の導入	■急傾斜施設で高所の点検箇所を安全に精度よく確認、点検する技術 ・狭い場所のために高所作業車を使用できない。ひび割れや浮きを遠方から目視で確認できても、ひび割れ幅など詳細までは把握できない状況である。また、打音検査ができないため空洞の有無を把握できない。	精度	精度が高く安価な調査が可能となる調査方法・技術が必要
	海岸	護岸・根固工・水制工	10	新技術等の導入	■点検結果の取りまとめ(亀裂等の経過) ・劣化の目視判断は、判断基準の統一が難しい。 ・判断には経験が必要。 ・とりまとめに時間がかかる。	事務手続き等の簡素化	・5年ごとの点検業務において客観的かつ統一された判断と迅速な処理 ・画像解析(深層学習)で劣化状況の判定とその診断結果のとりまとめが自動でできる ・写真の経過から劣化の予測ができる
	下水道	管渠	11	新技術等の導入	■既設管渠の位置情報の取得(適切な施設管理) ・既設管渠の設置時期が昭和50年代と古いため、埋設された管渠の位置情報(平面位置・埋設深)は図面読み取りとなっているが、施工誤差などから実際の位置と大きくズレが生じている場合があり、近接協議の際に現地確認等の調整を要している。	精度	・下水流下状況で位置情報を取得する(ドローンなどの技術活用)
		管渠	12	新技術等の導入	■圧送管の点検技術(漏水箇所の特定) ・運用中の圧送管の点検方法、破損・漏水箇所の特定が難しく、ピンポイントに場所の特定ができない。	精度	・運用中の圧送管の補修が必要となった時に短時間で作業を終わらせる
		管渠	13	新技術等の導入	■不明水照査技術(場所の特定) ・費用をかけ不明水調査を行っても場所の特定が困難である。	精度	・漏水箇所の特定精度が上がることで処理場の負荷を下げる
		管渠	14	新技術等の導入	■雨天時浸入水発生源及び流量の特定 ・雨天時に浸入する不明水が多く、支障が生じている。発生源も広範囲わっており位置を特定することが困難で、また流量についても常時流量計を設置していないため正確な判定(費用対効果)や対策計画立案が困難である。	コスト削減	・非開削で対応できること ・常時流量計測できること
		ポンプ場、処理場	15	新技術等の導入	■雨天時浸入水の原因箇所特定技術の開発 ・下水道事業において、施設の老朽化や誤接続に伴う雨天時浸入水が確認されており、昨今の異常気象に起因する豪雨により終末処理場の処理能力を超える汚水の流入が発生している。現状、汚水管への雨水浸入水が想定される区域が広大なことから原因の特定には時間を要するため、効率的に原因箇所を特定できるような技術の開発が望まれる。	工程短縮	・雨天時浸入水の原因箇所を特定する
	上水道	上水道	16	新技術等の導入	■コンクリート構造物及び水管橋の点検へのドローン等の活用 ・現状では遠望点検を行っているため死角への対応ができておらず、劣化状況の判断に苦慮している。	施工性	・ドローン等の活用で撮影動画を保存し経年劣化を判断できる
		上水道	17	新技術等の導入	■マニュアルや取扱説明書、図面などを電子化、Web化 ・設備(機械・電気・配管)を現場で点検・調査する際に、その設備の図面を探し紙ベースのものを印刷し持ち運ぶのは不便である。	施工性	・タブレットなどですぐに設備の情報を確認できる
		上水道	18	新技術等の導入	■配水池付近の漏水調査 ・水圧が低いため漏水箇所を特定することが非常に困難である。	施工性	・極力安価に調査できる技術 ・漏水箇所を特定できる技術
	営繕	建築	19	新技術等の導入	■住居内の設備の老朽化の把握 ・入居年数が長い住戸内の設備の劣化状況が不明である。	コスト削減	・個人のプライバシーに配慮されること ・調査費が安価であること
		建築	20	新技術等の導入	■埋設配管等の破損箇所の調査 ・給水管等の破損箇所の特定が困難であり長期化する。	コスト削減	・調査精度が高いこと ・短時間で調査ができること
診断	上水道	上水道	21	新技術等の導入	■配水池等の水密性を有するコンクリート構造物の診断技術(コンクリート構造物の劣化補修) ・運用中の配水池等の劣化診断の際に、配水池等の停止(排水)が必要となるが、稼働状況によっては配水池等の停止ができない施設もある。	施工性	・配水池等を運用しながら診断できること
		上水道	22	新技術等の導入	■地中可視化技術 ・管路情報を記した完成図が不十分な場合、管路の埋設位置を把握することができない。	精度	・非開削で高精度な地下埋設物占有位置の把握及び水道管路と他企業埋設管の判別が可能な技術 ・試掘調査と比較して短時間、安価で調査が可能であること
		上水道	23	新技術等の導入	■テレメータ設備改良(異常原因特定機器) ・本市の上水道設備における専用回線はアナログが主流であるため、通信異常が発生したときに、NTTの専用回線の不具合かテレメータ設備の不具合なのか判断しづらいことが多い。「同時に依頼」との意見もあるが、NTT、計装設備メーカーそれぞれの言い分が相手側の故障を主張するため、通信復旧までに相当の時間を要している現状である。	その他	・水道担当者が現地で手軽に判別できる検査器
	公園	樹木	24	新技術等の導入	■公園の樹木(街路樹)の更新の考え方 ・古い樹木が増え危険木も多くあり予算的に全ての木を対応するのが難しい。直営でも作業をしているが他業務もあるため限度がある。	その他	・樹木の植替え、更新の基準や考え方 ・他都市の事例
施工(補修・更新)	道路	橋梁(全般)	25	新技術等の導入	■交通量の多い道路に架かる桁下空間が狭い橋梁の補修・架替について交通規制を最小限とした施工方法の確立 ・桁下空間に作業スペースが確保できない橋梁において床版下面や下部工に損傷が確認された場合、補修工事の施工は困難(不可能)である。また、架替、BOX化とする場合は、長期間の交通規制あるいは迂回路の設置が必要となり、特に交通量の多い路線の場合、関係機関との調整に時間を要する。	施工性	・交通開放しながら作業可能なこと ・橋梁周辺の土地利用制限を最小限にすること
		橋梁(全般)	26	新技術等の導入	■橋梁塗装に用いられているPCBの処分 ・鋼橋塗装に用いられているPCBの処分期限が迫っているが、現在の鋼橋の塗装にPCBが含まれているかどうかの調査すらできていない。処分期限内にPCB塗装を無くす工事をすることはおそらく不可能である。	施工性	・作業効率が良くかつ技術がなくても判断する手法 ・処分費を安価に抑えること
		橋梁(全般)	27	新技術等の導入	■既設高欄の補修 ・既設高欄の支柱が著しく腐食をしており取替を計画しているが、地覆幅が狭いが現場の制約があるため地覆幅が狭く高欄のアンカーが設置できない。このような場合、支柱の取替ではなく補強ができる施工方法はあるのか。	その他	・極力費用が安価な技術

令和6年度 施設管理者ニーズ一覧表

工種	分野	細分	No.	ニーズ分類	対象とするニーズ	特に必要とする条件	条件等
施工(補修・更新)	道路	橋梁(鋼橋上部工)	28	新技術等の導入	■老朽化した鋼橋上部工の撤去、架替または補修対策 ・主桁の腐食により全面通行止している橋であり、管理者としては撤去したい意向ではあるが地元は観光名所のため残してほしい。	コスト削減	・施工費が安価であること ・架設年次1929年、橋長19.3m、幅員4.5m、一級河川日野川水系石見川にかかる橋梁(旧県道)
		橋梁(鋼橋上部工)	29	新技術等の導入	■鋼橋の塗膜剥離剤 ・様々な材料があるが現場によっては回数が増える時もある。回数が少なく済むような材料等があれば検討したい。	工程短縮	・剥離回数を減らせるような(良く剥離できる)材料等
		舗装(全般)	30	新技術等の導入	■点字ブロックや路面標示の施工について、早期開放(短時間の施工)を可能とする修繕技術 ・点字ブロックや路面標示の老朽化に係る復旧(施工)は、長時間の交通規制を必要とするなど、一般交通に影響を与えてしまう。	施工性	・一般交通に極力影響を与えないような施工性の向上が図られるもの(従来の点字ブロックや区画線等でなくシール形態の製品の開発など)
		道路排水施設	31	新技術等の導入	■獣害対策 ・猪が土砂を掘り起こし側溝内に堆積する。	施工性	・水路敷地等に簡単に設置できる
		道路排水施設	32	新技術等の導入	■獣害対策(排水施設の埋設) ・イノシシ等が法面を掘り荒らして道路排水施設が土砂で埋まる。	コスト削減	・施工費が安価であること ・部分的な作業(維持工事)で補修が完了できるもの
		のり面(吹付・法枠)	33	新技術等の導入	■モルタル吹付背面の空隙、剥離対策 ・吹付面に剥離やクラックが発生している。	コスト削減	・施工費が安価であること ・部分的な作業(維持工事)で補修が完了できるもの
		のり面(吹付・法枠)	34	新技術等の導入	■モルタル吹付面の上(自然斜面)からの落石対策 ・イノシシ等が自然斜面を掘り荒らして道路上へ落石が発生している。	コスト削減	・施工費が安価であること ・部分的な作業(維持工事)で補修が完了できるもの
		のり面(植生)	35	新技術等の導入	■法面崩壊対策 ・災害基準を満たす大雨ではないが、法面崩壊した箇所を維持工事で大型土のうで仮復旧しており本復旧に向けての対応(H≒10m、L≒10m)である。	コスト削減	・施工費が安価であること ・部分的な作業(維持工事)で補修が完了できるもの
		その他	36	新技術等の導入	■道路路肩の除草、道路の建築限界確保が簡単に対応できる技術 ・除草作業を行っていた地域が高齢化により対応が困難になっているので省力化を図りたい。	施工性	・急勾配箇所対応及び飛び石対策あり ・少人数で持ち運びできること
	砂防	のり面(吹付・法枠)	37	新技術等の導入	■枠内吹付、防草対策の新工法 ・既設法枠への防草対策(モルタル吹付)は新設時に比べ多くの手間がかかる。	施工性	・家屋が近接していても施工可能なこと ・ライフサイクルコストに優れること
		のり面(吹付・法枠)	38	新技術等の導入	■積算事務の省力化 ・法枠内に繁茂した植生や樹木は、施設や近接する家屋に影響を及ぼす場合には伐採している。標準の積算基準書の河川維持での伐採歩掛や県独自の伐採歩掛はあるものの、急傾斜地のような狭間で足場の悪い現場条件に適用する歩掛は全く見直しが必要となっている。	事務手続き等の簡素化	・現場条件は様々なので全ての条件を網羅することは難しいが、急傾斜地においても一定の条件下であれば適用できる伐採歩掛があれば積算事務の省力化に繋がるものとする(急傾斜に限らず道路や砂防の現場にも適用できると思われる)。
		全般	39	新技術等の導入	■砂防関係施設の修繕に係る新工法、新技術 ・砂防施設、急傾斜地崩壊対策施設、地すべり防止施設の修繕に係る新工法、新技術新技術活用ができていない。	コスト削減	・極力費用が安価な技術 ・誰でも(専門知識を持たない人)でも使用可能なもの
	港湾	保留施設	40	新技術等の導入	■防舷材(ゴム製品)に生じた浅い裂傷を接着する接着剤 ・防舷材(ゴム製品)は、裂傷が発生した場合には取替える必要があるが、防舷材は非常に高価であり維持管理予算の影響が大きい。	コスト削減	(特になし)
		保留施設	41	新技術等の導入	■ボルトを繰り返し使用して防舷材(ゴム製品)を岸壁に固定する方法 ・防舷材(ゴム製品)は、岸壁にボルトとナットで固定するが、ボルトとナットは溶接で固定させるので防舷材を取替える度にボルトを再利用できず、ボルトを岸壁上部に打ち直している。ボルトを繰り返し打ち込むと岸壁上部工を傷めることになる。	コスト削減	(特になし)
		保留施設	42	新技術等の導入	■船体が引っ掛かりにくい形状(角をより斜めにした等)に工夫した防舷材 ・防舷材の上部(海側)の角は直角形状に近い場合、潮汐(潮の干満)による船の下降移動や接岸時のローリング、ピッチング運動により、船側に突起形状がある場合は特に防舷材の上部の角に引っ掛かりやすと考えられる。船体が引っ掛かることで防舷材は損傷(裂傷など)を受けてしまう。 	コスト削減	(特になし)
	港湾	保留施設	43	新技術等の導入	■陸揚げせずに現位置(海上)でフロート部の交換が可能な浮棧橋の設計事例 ・浮棧橋(プレジャーボート保留施設等の小規模な浮棧橋を想定)は主に浮体(いわゆるフロート部)、鉄骨造等の骨組とデッキプレートで構成されるが、フロート部の浮力が低下した場合には浮棧橋全体を陸揚げしてフロート部を交換する必要があり、陸揚げしている間は浮棧橋の利用を停止せざるを得ないため利用者への影響が大きい。 	工程短縮	・例えば、隣接浮棧橋のデッキを利用してジャッキアップ、現位置で彫らまさせることが可能なフロートの取付
		道路付風物	44	新技術等の導入	■アスファルト舗装と異なる色(白色系など視認性が高い色)のアスカーブ ・雨水の誘導、車やバイクなどのはみ出し防止のために設置している道路脇のアスカーブは、アスファルト舗装と同色(黒系色)で視認性が悪い。視認性を高めるためには、設置したアスカーブにペイント等を追加で施工が必要がある。	コスト削減	(特になし)
	上水道	上水道	45	新技術等の導入	■山間部小規模集落における災害時等による漏水時の水道水確保 ・近年の気象状況の不安定さから地下水・湧水を水源とした集落規模の水道の水源が枯渇し取水不可能となった場合の代替水利への浄水設備の技術。	労力・人員削減	・専門知識の有無にかかわらず管理が可能であること ・費用が安価な技術であること
	全般	建築	46	新技術等の導入	■警察署・交番等の施設における老朽化した排水管洗浄方法・技術 ・高圧洗浄すると排水管が損傷する恐れがある。	施工性	・施工費等が安価であること
		建築	47	新技術等の導入	■地中内の給排水管の埋設場所が図面がなくとも分かる方法・技術 ・警察署や交番等の施設において、建築から相当年数が経過し図面が汚損・欠損している場合に管の位置が判然とせず工事が難航する。	工程短縮	・施工費等が安価であること
		建築	48	新技術等の導入	■交番・駐在所等の屋根改修工事の際に低価格で実施できる施工方法 ・屋根材にアスベスト含有がある場合、改修(葺き替え)にはアスベスト除去等費用が膨大となる。これを費用を抑える(発生させない)改修方法・技術が必要である。	コスト削減	・施工費等が安価であること
		建築	49	新技術等の導入	■カビ臭を除去する方法・技術 ・宿舎全体がカビ臭の匂いがする。	施工性	・施工費等が安価であること ・建物の後方には山があり常時湿度が高い状況にある
		建築	50	新技術等の導入	■湿気等による床のたわみが出ない方法・技術 ・浴室周辺の床等が湿気でたわみ、床が抜けそうになることがある。	施工性	・施工費等が安価であること
		樹木	51	新技術等の導入	■警察施設内の樹木の管理を簡易化する技術 ・樹木が伸び育ち腐朽すれば安全性に問題が発生し、構造上の障害になる場合がある。	事務手続き等の簡素化	・施工費等が安価であること ・施工が容易であること

令和6年度 施設管理者ニーズ一覧表

工種	分野	細分	No.	ニーズ分類	対象とするニーズ	特に必要とする条件	条件等
マネジメント全般	道路	橋梁(全般)	52	施設の集約・再編	■国土交通省のX-ROADから出力されたデータをAPI連携にて用いてアセットマネジメントができるシステム(WEBアプリ)等 ・個別施設計画を作成する際に、劣化予測・修繕費用の算出作業が煩雑で困っている。そこで、できることからDB化したい。	施工性	・国土交通省のプラットフォームに適合していること ・安価で汎用性があること ・内部統制用資料として「見える化」ができること
	下水道	ポンプ場、処理場	53	新技術等の導入	■処理場での劣化度診断技術の開発 ・処理場では初沈・終沈・調整池などの池(構造物)のコンクリート劣化状況を調査・診断する際、汚水を抜いた後に人手による目視点検を実施している。汚水を抜く際には調整に時間を要しているため、汚水を抜かない調査が望まれる。	工程短縮	・下水流下状況で劣化度を診断する(水中ドローンなどの技術活用)
その他	河川	樋門・樋管	54	新技術等の導入	■樋門、樋管の操作自動化 ・樋門、樋管の操作員の高齢化等への対応として自動化に取り組むことは重要だと認識しているが、1箇所あたりの費用が膨大なため実現が難しい。	コスト縮減	・極力費用が安価な技術
	上水道	上水道	55	新技術等の導入	■仕切弁の維持管理 ・配水管路に設置した仕切弁の老朽化が進んでいる。	施工性	・埋設管路の仕切弁の点検方法(開閉の操作性等)、メンテナンス方法の確立
	公園	公園(遊具・四阿)	56	その他	■砂場のフン害対策の現状と今後 ・現状行っているフン害の防止として、愛護会と協力して砂場にシートを設置したりしているが、他にできる対策があれば知りたい。	その他	・他都市の事例
		その他	57	その他	■身近な公園でのボール遊びに対する他都市の条例や対策 ・公園内で野球やサッカーをする子供が多く、ネットを高くてほしいなどの近隣住民の要望が多く困っている。	その他	・効果のある対策 ・他都市の事例
		その他	58	その他	■公園施設の破損等悪質な行為の解決策 ・公園施設を燃やしたり破損する悪質行為がよくある。	その他	・注意喚起の看板設置や警察への巡回依頼などしているが他にできる対策 ・他都市の事例

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」 シーズ技術申込書

令和 6 年 月 日

ニーズ番号	No.
施設管理者の ニーズ	

別紙-1のニーズ番号及び施設管理者ニーズを記載してください。

技術の名称			
フリガナ			
企業・団体 名称			
フリガナ	〒		
所在地			
フリガナ			
氏名			
フリガナ		フリガナ	
所属		役職	
メールアドレス			
電話番号			

注意事項

1. 申込みは、施設管理者ニーズごとに行ってください。
2. 申込みの際の電子メールの件名は、「シーズ技術申込み」としてください。
3. 申込みにあたっては、本申込書とともに以下の資料の提出をお願いいたします。
 - ① 情報提供を予定しているシーズ技術の概要、コスト、適用条件、アピールポイント、開発状況、その他参考内容を記した資料(任意様式A4×1枚程度)
 - ② 実施事例がある場合は実施内容や実施状況等がわかる資料(任意様式A4×1～2枚程度)